

平成28年度全国学力・学習状況調査に係る 厚木市立小・中学校の調査結果について

市立小学校6学年及び中学校3学年を対象に、平成28年4月19日に実施した全国学力・学習状況調査の結果がまとまりました。教育委員会では、今回の分析結果を踏まえ、教育施策の成果や課題等を把握・検証し、今後の教育施策に反映するとともに、市立各小・中学校においては、校長のリーダーシップのもと、各教員が指導内容・方法の改善を進めてまいります。

1 調査の概要について

(1) 調査の対象学年 小学校第6学年及び中学校第3学年

(2) 調査の内容

ア 教科に関する調査(国語、算数・数学)

- ・主として「知識」に関する問題 国語A、算数A・数学A
- ・主として「活用」に関する問題 国語B、算数B・数学B

イ 生活習慣や学習環境に関する質問紙調査

- ・児童生徒に対する調査
- ・学校に対する調査

(3) 調査日 平成28年4月19日(火)

(4) 調査に参加した児童・生徒数

【小学校】

国語A	国語B	算数A	算数B	児童質問紙
1,875人	1,874人	1,875人	1,875人	1,875人

【中学校】

国語A	国語B	数学A	数学B	生徒質問紙
1,957人	1,958人	1,956人	1,957人	1,958人

(参考) 全国・県・市の公立学校の参加校数

	小学校	中学校
全 国	19,451校	9,576校
神奈川県	860校	418校
厚木市	23校	13校

2 教科に関する調査結果について

【平均正答率】

(単位 %)

	小学校				中学校			
	国語 A	国語 B	算数 A	算数 B	国語 A	国語 B	数学 A	数学 B
全 国	72.9	57.8	77.6	47.2	75.6	66.5	62.2	44.1
神奈川県	70.3	58.2	76.6	47.3	75.4	67.0	61.9	44.3
厚 木 市	68.0	53.8	73.0	43.8	74.8	66.0	61.5	43.0

- ・・・相当数の児童・生徒ができています
- ・・・課題となる点

(1) 小学校国語の主な結果について

文章や図表などの複数の資料から、必要な情報を取り出し、それらを関係付けて条件に合った結論を導き出すことは、相当数の児童ができています。

平仮名で表記されたものをローマ字で書くこと、ローマ字で表記されたものを正しく読むことに課題があります。

目的に応じて、文章の内容を的確に捉え、条件に合ったものを読み取り、それらを関連付けながら文章にまとめることに課題があります。

(2) 小学校算数の主な結果について

繰り下がりのある引き算や二つの数の大小関係を表す不等号を正しく書くことは、相当数の児童ができています。

示された条件から規則性を見出し、他の場合についても同じきまりが成り立つかを調べることは、相当数の児童ができています。

目盛りの大きさの異なる二つのグラフを見比べて、読み取ったことを言葉や数を用いて記述することに課題があります。

図形と式とを関連付けて、式の意味を説明することに課題があります。

(3) 中学校国語の主な結果について

文脈に即して漢字を正しく読むことは、相当数の生徒ができています。

相手や場に応じた言葉遣いなどに気を付けて話すことについては、相当数の生徒が理解できています。

主語と述語、修飾語と被修飾語など、文を構成する成分の名称や照応について正しく理解できていない生徒が多く見られます。

疑問に思ったことを調べる際に、それに応じた必要な情報の収集方法を考えることについて課題があります。

(4) 中学校数学の主な結果について

正の数と負の数や文字式などの四則計算、二つの等号で結ばれている方程式を連立方程式で表すことは、相当数の生徒ができています。

比例の関係を表す表を見て、 x の値に対応する y の値を求めることは、相当数の生徒ができています。

伴って変わる二つの量を表す表から変化や対応の特徴を捉え、反比例の関係を見出し、理由を説明することに課題があります。

与えられたグラフの中から必要な数値を適切に取り出し、相対度数を求めることに課題があります。

3 児童・生徒質問紙調査の結果について

(1) 回答の傾向について

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none">・・・教科の正答率が高い児童・生徒に見られた回答の傾向・・・教科の正答率が低い児童・生徒に見られた回答の傾向 |
|---|

ア 学習に対する関心・意欲・態度

学校で、好きな授業がある。

友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができる。

国語の勉強は大切だと思う。

解答を文章で書く問題について、あきらめずに解答しようと努力した。

意見などを発表するとき、うまく伝わるように話を組み立てることができない。

解答を文章で書く問題について、あきらめずに解答しようと努力できなかった。

イ 家庭学習・学習時間、社会に対する興味関心等

家で、学校の宿題をしている。

小学5年生(中学2年生)までの授業では、自分の考えを発表する機会が与えられていたと思う。

テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見る。

家での学習時間が1日1時間より短い。

自分とは異なる意見や少数意見のよさを生かしたり、折り合いをつけたりして話し合い、意見をまとめることができていない。

ウ 基本的な生活習慣、家庭でのコミュニケーション

毎日、朝食を食べている。

毎日、同じくらいの時刻に起きている。

平日、テレビやビデオを見たり、ゲームをしたりする時間が、1日に2時間以上である。

エ 自尊感情、規範意識 等

ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがある。

学校で、友達に会うのは楽しいと思う。

学級みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがある。

学校のきまりを守っている。

友達との約束を守っている。

いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思っている。

人の役に立つ人間になりたいと思っている。

友達の前で自分の考えや意見を発表することが得意ではない。

(2) 児童・生徒質問紙調査の結果から見える今後の取組の重点

ア 「将来の夢や目標を持っている」と回答する児童・生徒の割合が、昨年に比べやや増加しています。また、「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意」と回答する児童・生徒の割合も年々増加傾向にあります。

しかし、一方では、「自分には、よいところがあると思う」と回答する児童・生徒の割合は減少傾向にあります。

各学校においては、引き続き、児童・生徒の自尊感情を高めるような指導を充実させることが大切です。

イ 1日2時間以上テレビゲームをする児童・生徒の割合、また、1日1時間以上、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをする児童・生徒の割合は、昨年と比べて減少してはいるものの、依然として全国平均を上回っている状況です。

各学校においては、保護者との連携・協力を図り、情報機器の適切な利用について一層の働きかけをしていくことが重要です。

ウ 学校で、好きな授業がある児童・生徒の割合は高く、全国と比較しても上回っています。

各学校においては、これからも引き続き、基礎学力の向上と思考力・判断力・表現力等の育成を重視し、児童・生徒の主体的・協働的な学習活動の充実を図ることが必要です。

家庭学習については、学校の宿題はしっかりとできているものの、自分で計画を立てて学習をしたり、教科書を使いながら自学自習をしたりすることは全国との比較で見ると下回っている状況にあります。

保護者との連携を深めたり、課題の出し方を工夫したりするなど、家庭学習の充実を図っていくことが大切です。